

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
13

振興協議会だより

〔発行日〕平成27年6月19日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600

苗場山麓ジオパーク公認ガイド誕生！

苗場山麓ジオパークを目指した時から、地元の自然環境のすばらしさと、それを背景に育まれた歴史文化の奥深さを伝えるために、各公民館を歩き、説明しました。それを皮切りに平成26年1月から「ジオパークガイド養成講座」を毎月1～2回開催してきました。事務局は20人も集まれば上出来と思っていましたが、蓋を開けてみると毎回60人前後の皆様がご参集くださり、活発な質疑応答が展開しました。

この勢いがいつまで続くのか不安と期待が交差するなかで12回を無事完了し、既に第2期7回が終わるように、ガイド養成講座は継続中です。

このガイド養成講座で学んだことを確認できるシステムとして「苗場山麓ジオパークガイド認定検定」を計画し、毎年3月に開催することとしました。第1回の検定は、平成27年3月28日に実施することとし、多くの皆様に呼び掛けしたところ、54人の応募があり、これまた事務局が驚くと共に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

さて、検定当日は、種々の事情で50人の皆様が検定を受け、1年間学んできた成果を発揮してくださいました。その結果は、平均82点であり、受験された皆様全体が好成績でした。すなわち、私たちが伝えたい“ジオパークのあれこれ”がしっかり伝わっていた証を事務局として確認できたうれしい出来事でもありました。この第1回初級検定の合格点は80点であり、受験者50人中、38人の精鋭が合格されました。

合格者には、認定証（賞状とカード）が用意され4月25日に授与式が開催されました。授与式には皆様、晴れ晴れしい顔でご参集頂き、清水修教育次長のお祝いの言葉とこれから苗場山麓ジオパークガイドとしての活躍を期待した発言に目を輝かせて聞いていただきました。そして最後に、認定を祝い記念撮影を行いました。

さて、事務局では、初級から中級、中級から上級へとガイドの多様な知識と技術を段階的に向上させるために、視点を変えて新たな「ガイド養成講座」の中身の吟味や「ガイド研修会」の実施を計画しているところです。

生まれ育った大地の雄大な自然環境の仕組みや歴史文化の奥深さを学ぶことは、「生涯学習」そのものです。ガイド養成講座を受講することは、何もガイドになるだけの目的ではなく、自らが生活に潤いを与える「生涯学習」でもあるのです。



認定証とカード



認定式のあと皆で記念撮影

認定ガイドの初仕事は水沢中学校1年生ジオツアー

日本ジオパークの認定をうけ、学校や旅行会社からジオツアーやジオパークガイドの依頼が多くなってきました。5月20日には、十日町市立水沢中学校1年生が自然体験活動の一環で苗場山麓ジオパークに来てくれました。生徒と先生合わせて約50名がマイクロバス2台に分かれ、各バスに認定ガイドが乗車し、ジオサイトをめぐりました。

まず向かったのはマウンテンパーク津南展望台、そこでガイドの説明を聞きながら河岸段丘などを観察しました。晴天にめぐまれて苗場山もはっきり見ることができました。その後、龍ヶ窪へ行き湧水地点を見たり日本名水百選の水を味わったりしました。お昼は、なじもんの芝生でとり、午後は石落としと見倉橋へ。この日は暑かったので、石落としを観察した後、ガイドに習って見玉公園のブナ林でブナの木に抱きついてヒンヤリ感を体感したり、ユキツバキの葉で葉笛を作って鳴らしたりしました。見倉橋では、どの生徒も揺れに歓声をあげながら渡っていました。

数日後、子どもたちから「はじめはジオパークって何だろう？と思っていましたが、ガイドさんの説明が分かりやすく、行ったところ全てが印象に残っています。」という嬉しい感想文をいただきました。雄大な景色や美しい植物もガイドの説明が加わることでより興味深く感動的なものになります。より多くの方々に苗場山麓の魅力味わっていただけるよう、ガイド研修を通してスキルアップを図ってきたいと思います。



マウンテンパークから河岸段丘を観察



石落としにて



揺れる見倉橋

「ジオのおくりもの」バイキング

中深見にある、ごっつお市さんで「ジオのおくりもの」というランチバイキングが行われています。今のところ土日・祝日限定ですが、お母さんたちがつくる、山菜など地元食材を使ったまさしく「大地のおくりもの」のご馳走が味わえると好評です。同店では、地元の野菜や山菜などの直売スペースもあり、安くて新鮮だと地元の人も買いにおとずれます。皆さんもぜひ足を運んでみてください。



絵解きジオパーク イラスト:鈴木夏海



2人のかわいい児童の様子から何を感じとりますか？
背景にある石から何を連想しましたか？
さらに石垣の上に生い茂る植物は何を教えてくれるでしょう？

※答えは最後のページです。

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

外丸矢放神社の八本杉



所在地 津南町外丸

種別 自然

外丸集落の矢放神社境内にあるスギです。

幹周11.3m、高さ40m、樹齢400～500年と推定されます。8本のスギが集合して生長と共に根本がくっつき、巨大な1本のスギのように見えます。催事などでライトアップされるとさらにその雄大さに圧倒されます。

昭和62年12月4日、津南町の天然記念物に指定されました。

小赤沢のユモトマユミ



所在地 栄村小赤沢

種別 自然

小赤沢集落にある幹周2.4m、高さ6.2mのユモトマユミです。樹齢は200年以上と推定され、この種としては稀な巨木です。

秋になるとかわいい赤い実をつけ、老木になると樹皮には縦に深い割れ目が入ります。

昭和62年6月24日、栄村の天然記念物に指定されました。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

新潟駅前で展示会「火焰型土器のクニと苗場山麓ジオパークの魅力」開催中

5月20日から6月28日まで、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」において、新潟大学旭町資料展示館サテライトミュージアムの企画として、「火焰型土器のクニと苗場山麓ジオパークの魅力」をテーマに展示会を開催する運びとなりました。なお、この展示会は、当初からジオパーク推進に援助していただいた新潟大学のト部厚志准教授のはからいで実現したものです。苗場山麓ジオパークについて新潟市民だけでなく、県民に広く知っていただければと願い、企画したものです。

これを機会に、今も息づく日本の原風景・秋山郷、火焰型土器に代表される縄文文化・雪国文化の魅力をご覧くださいと思います。6月4日(木)には、講演2として「苗場山麓の豊かな大地」、「苗場山麓に咲く花々」のテーマで講演を行いました。6月28日(日)には、「災害・地質からみる苗場山麓」、「鈴木牧之がみた秋山郷に触れる」をテーマに講演を予定しています。新潟市に行く機会がありましたら、ぜひお立ち寄りください。



磐梯山ジオパーク視察

5月13日(木)晴天のもと、磐梯山ジオパークの視察を行いました。ねらいは、今年度、再審査を迎えるジオパークとしての現状と課題などの情報交換することです。道の駅「ばんだい」に集合し、事務局の蓮岡真さんがガイドをしてくださり、下記の施設の説明を受け、視察をしました。

●道の駅ばんだい、史跡慧日寺跡(磐梯町) 道の駅にて、磐梯山ジオパークのリーフレットにより現在地や磐梯山の概要について説明、その後、慧日寺にて会津仏教文化の発祥の地へ。

●岩なだれ堆積物の露頭観察(磐梯町) 知られざる4万年前の噴火をたどる物語、岩なだれと流れ山と直面する。

●大地創造をたどるパノラマ物語(猪苗代町) 天鏡台(昭和の森)にて磐梯山のでき方と湖のでき方について。

●裏磐梯ビジターセンター視察(北塩原町) 館内の展示物、雪室の見学など。国立の施設で、ハード・ソフト両面の設備が整っている。

●明治の噴火をたどる物語 五色沼湖沼群(毘沙門沼)の散策と観望(北塩原町) 蓮岡さんのお話から、ジオパークの申請以前に、旅館組合や自然の家等でガイド組織ができていたのはよいが、ジオパークガイドとの横の連携やガイド養成の共通した取組が乏しいことがうかがえた。

雪国での具体的な案内看板の設置については、取り外しが容易なものは、そのまま、当苗場山麓ジオパークに取り入れられると思います。ジオパークガイドの資質向上や組織などについて、当苗場山麓ジオパークにおいて参考にできることが沢山ありました。



毘沙門沼からの磐梯山



裏磐梯ビジターセンター



冬季に外して保管できる解説板

絵解きジオパーク その答えは

この地点は、ジオサイトNo.13の「山伏山の風穴」です。自然に吹き出る冷風に子どもがびっくりして寒がっている様子です。背景にある角礫は柱状節理の岩を利用して積み上げた土台であり、この上に木造の小屋が建っていました。その小屋は、蚕の卵を保管するもので大正年間、中魚沼郡全体の養蚕を支えた施設でした。緑の草は、ミヤマメシダで寒い環境を好む植物です。この風穴は平成24年3月、津南町有形文化財に指定されました。